ロシア

厳しい状況のロシア経済

2014年の実質GDP成長率（１次速報）は前年比0.6％となり、2012年の後半から続いてきた減速傾向は、いよいよ深刻なものになった。四半期ごとの成長率は低下を続け、ついに第４四半期にはマイナス0.2％（経済発展省推計）となった。2015年の成長率は、経済発展省もIMFもそろってマイナス3.0％になると予測している。もちろん、これにはウクライナ問題に端を発する西側諸国による経済制裁や、2013年夏以降に進行した原油価格の下落などが影響している。

中でも原油価格の低下の影響が大きい。ロシア産原油の代表的指標であるUralsの2014年の平均価格は1バレル97.6ドルだったが、12月の月平均価格は同61.1ドルであり、前年同月比44.4％も低下した。このことは、直接的には輸出額の減少につながり、さらに為替レートの変動を通じて国民生活全般に関わってくる。

2014年の原油の輸出額は1,539億ドルで、11.4％減少（対前年比）した。輸出量では、5.6％の減少（同）にとどまっており、価格下落の影響が大きい。原油が主要輸出品目であることから、輸出総額も５年ぶりに減少に転じた。しかも、原油価格の下落動向に伴い、足下では輸出額の減少幅が拡大している。2014年12月の輸出総額の減少率（対前年同月比）は25.3％に達した。

2014年２月のウクライナの政変後、一時期１ドル37ルーブル近くまで下落したルーブルは、６～７月頃には34ルーブル前後で落ち着くような状況も見られた。しかし、８月に再び36ルーブルを越えたあたりから減価傾向が明らかになり、12月18日には67.8ルーブルへと暴落した。2015年に入ってからは60ルーブル台で不安定な値動きが続いている。ドルに対するルーブルの価値は、ウクライナ問題以前の水準と比べて、半分程度になってしまった。

消費物資の多くを輸入に頼っているロシアでは、通貨安が物価上昇に直結する。過去５年間、一桁の上昇率に収まっていた消費者物価は、2014年には11.4％の上昇となり、さらに2015年１月は対前月比3.9％もの上昇となった。

産業強化の機会

「禍福は糾える縄の如し」の言葉通り、ルーブル安には国産品の価格競争力向上という良い面もある。これにより、製造業製品の輸出増および輸入代替による国内生産の刺激という効果をもたらすことが期待される。実際に、1998年のロシア金融危機の後には、化学工業や木材・製紙関連などが輸出の増加で、軽工業や食品工業などが輸入代替効果で生産が増加したとされている[1]。

もちろん、一概に今回も同様の効果があるとは言えない。1998年の危機の際は、１年間でルーブルの価値が４分の１（１ドル６ルーブル程度から同24ルーブル程度）に下落したが、今回はそこまでの下落幅ではない。また、混乱期にあった1990年代と比べて、2000年代には流通経路の固定化が進んだ。輸入商社と大手小売業などが構築してきた流通経路に、国産品が割り込んでいくことには難しさもあろう。生産側でも、当面は既存設備の稼働率を高めることで対応できるだけの生産増しか望めない。1998年時点では遊休設備がかなりあったが、現在の生産余力は限定的かもしれない。

様々な問題はあるものの、ルーブル安が国内産業に追い風であることは事実だ。原油高の「ぬるま湯」に浸かっていた間には進まなかった産業構造改革を進めるべきだろう。４月までに関連の政府プログラムを策定する[2]とのことだが、実効性のある政策を望みたい。

（ERINA調査研究部長・主任研究員　新井洋史）

（対前年同期比）

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2013				2014							2015
								1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	10月	11月	12月	1月
実質GDP	5.2	▲ 7.8	4.3	4.3	3.4	1.3	0.6	0.8	1.0	1.3	2.0	0.9	0.8	0.7	—	—	—	—	—
固定資本投資	9.9	▲ 16.2	6.0	8.3	6.6	▲ 0.2	▲ *2.5*	0.1	▲ 1.2	▲ 0.3	0.4	▲ 4.8	▲ 1.4	▲ 2.4	▲ *3.0*	▲ *2.9*	▲ *4.8*	▲ *2.4*	—
鉱工業生産高	0.6	▲ 9.3	8.2	4.7	3.4	0.4	1.7	▲ 1.2	0.8	0.6	1.4	1.1	1.8	1.5	2.1	2.9	▲ 0.4	3.9	0.9
小売売上高	13.5	▲ 4.9	6.3	7.0	6.3	3.9	2.5	4.0	3.8	4.0	3.6	3.6	1.9	1.4	3.1	1.6	1.8	5.3	▲ 4.4
実質可処分所得	2.3	2.1	4.2	0.8	4.6	4.0	▲ *1.0*	5.9	3.8	3.2	3.6	▲ *3.4*	*0.7*	*2.1*	▲ *3.5*	*1.9*	▲ *3.9*	▲ *7.3*	▲ *0.8*
消費者物価*	13.3	8.8	8.8	6.1	6.6	6.5	11.4	1.9	3.5	4.7	6.5	2.3	4.8	6.3	11.4	7.1	8.5	11.4	3.9
工業生産者物価*	▲7.0	13.9	16.7	12.0	5.1	3.7	5.9	0.9	▲ 0.9	5.4	3.7	2.3	4.3	5.2	5.9	5.6	5.1	5.9	1.3
輸出額（十億ドル）**	467.6	301.8	397.1	516.7	524.7	527.3	496.9	126.5	128.1	131.5	141.2	122.7	132.9	126.0	115.3	41.4	36.7	37.3	—
輸入額（十億ドル）**	267.1	167.5	228.9	305.8	317.2	315.0	286.0	71.0	78.6	80.3	85.0	66.9	75.5	75.0	68.6	25.0	21.4	22.2	—

*前年12月比。
**税関統計ベース。
***斜体は暫定（推計）値。
（出所）『ロシアの社会経済情勢（2015年1月号）』ほか、ロシア連邦国家統計庁発行統計資料

[1] “OECD Economic Surveys: Russian Federation” 2002
[2] アルカジー・ドボルコビッチ副首相の発言。（「ロシースカヤ・ガゼータ」紙、2015年２月11日付。）